

川越時間旅行 81

市立美術館 228・8080

川越ゆかりの美の巨匠たち3 洋画家・相原求一朗

市立美術館に、川越市名誉市民の洋画家・相原求一朗（1918～1999）の作品を常設している記念室があるのをご存じでしょうか。相原は、

北海道の厳しく雄大な自然の姿をモノクロームの色調で詩情豊かに描いた画家です。ではなぜ北海道だったのでしょうか。



相原求一朗

相原が時流のスタイルを次々に取り入れ、画家としての道を歩み始めた途端、海外の最先端の芸術運動が日本に紹介され、画壇は抽象を至上とする風潮に一気に傾きました。生来風景画を好んだ相原は、「絵画」の概念が根底から揺らぐ事態に、

ついに絵筆を執れなくなってしまう。かつての衝動を取り戻すべく、相原は手付かずの自然が残る北海道へ旅立ちます。そして、狩勝峠の大地でシラカバの白や、スキの銀色、エゾマツの緑、紅葉する低木の赤を目の当たりにし、具象である風景に抽象そのものを見いだすのです。悩まされていた「具象か抽象か」という次元を超え、自らの方向性を悟った相原は、以来、いつく北海道の大自然を通して人間の本質を描き出そうとしました。

生誕100年、没後20年を記念し、当館では特別展「相原求一朗の軌跡」を開催中です。相原の到達した芸術の神髄をぜひご堪能ください。詳しくは、11月25日発行の広報川越をご確認ください。



農政課 ☎224-5939

サツマイモ商品文化と紅赤いも

多種多様なサツマイモの料理や加工品が数多く売られ、世界的にも類を見ない「サツマイモ商品文化の息づく街」となっている川越。日本のサツマイモの加工技術は世界でトップと言われ、海外の研究者も視察に訪れます。市内では、サツマイモを扱う商業者を主体に、川越サツマイモ商品振興会という団体が設立され、多様な商品文化を守るため、さまざまな事業を行っています。

サツマイモの伝統品種である紅赤は、本来の風味の良さと火の通りの良さから、加工に適しています。特に、紅赤を原料とする伝統的な芋菓子

のいもせんべいは、110年以上の歴史があり、今でも作り続けられています。ほかにも、風味豊かな紅赤いも茶や、国際的なコンテストで数多くの受賞歴がある紅赤いもビールなど、数多くの商品が販売されています。

川越市マスコットキャラクター「ときも」のモチーフにもなっている紅赤。市内では、紅赤を使った加工品がたくさん販売されているので、ぜひ味わってみてはいかがでしょうか。



さまざまなサツマイモ商品

この時期に市内の直売所などで購入できる主な川越産野菜
コマツナ、ハクサイ、ネギ、ダイコン、ゴボウ、ブロッコリー、サトイモ、ホウレンソウ、ニンジン

県内42自治体から61作品の応募があった、F M N A C K 5 開局30周年特別企画「埼玉あなたの街」自慢コンテスト」市町村部門（ラジオCM）。川越市は、見事、準グランプリを授賞しました！川越市のCMは、「川越の音」がテーマ。時の鐘や囃子などさまざまな音でまちの魅力を伝えます。このCMは授賞の特典として、先月から一年間放送されます。放送時間は固定されていないため、ラジオから流れる作品を聞くことができます。その日はラッキーかも!? また、N A C K 5のホームページでも聞くことができます。

朝の気温がぐんと下がり、冬の訪れを感じるようになりました。川越水上公園の木々も色づき始め、見る人の目を楽しませてくれます。



編集後記

どんぐり

広報川越1428

「声の広報川越(CD)」 「点字広報川越」を作成しています。ご希望の方は、広報室までご相談ください。
☎224-5495 ☎225-2171

■発行日／平成30年12月10日(毎月10日・25日発行)

■発行／川越市 〒350-8601 埼玉県川越市元町1丁目3-1 <http://www.city.kawagoe.saitama.jp/>
☎049-224-8811(代表) ☎049-225-2171

■編集／広報室

私的利用の範囲を除き、記事や写真の無断転載を禁止します。

この印刷物は、グリーン購入法に適合する紙を使用し、印刷用の紙へ、リサイクルできます。

リサイクル適性(A)

Fontworks
UDFont